# 桃の首途 上

へ 5
4112
1

# 桃の首途 上

へ利5
4112
3—1

門へ和5
4112
1-3

大正三年一月十日受
佐藤忠三郎

# 序詞

蓮二房

享保のころ丁未のまき越後の川柳と
ゝ共に合羽よりゝの名をかゝめ
蕭園にまゝの草をこらさんと
物ゝ言のゝ系譜を設ける
黄鸝園のあるじ

むし、我師の示しによる祖父母の
旅の具として蕎麦と云ふものと
をもひ出して 山うろ社やとむよ
かをの一日ともに西りと人のくれ
作りて世の中よりれあを食やむと
よりなるに社のけひをけるものをもて
を師のをめまよりとをる実行也
をもれを蓮二もをあを作りて

今をを仏鼻の鼻の中とあるひ 笠
一かいの旅宿とをり百天の座より
作りをもして絶なの鼻息とんをを
ムへと旅よやむいの ゆり茅を
ををへ山よりをるねの麦粉と喰家と
尤嘗の初 釈迦よあまんをん
初善をよ秋也孔よををを
憍悪をを祖義の片、眺をを及けん

をゝ作たの減るなかう
秋をかつる山の錦をてゝをゝ河
のあをゝ色をなくてまやまる
れとゝをゝやとおもふいなあれ
作者のにんをゝんも

東京相模屋図書之印



をゝ金 [illegible]行

錦哈家語をゝ恭のも 山縣庫中 蓮
をゝ錦の恩をゝ 星紅
ゝくもいるゝ衣 野航
伯母をゝ 六之
をゝをゝ 白石
をゝこゝ 東羽

芋の名を宮もこうやとて名のの月　右籠

綿　芋の中の孫　栗九

ウ

ひ望のおやゆ人形　玉　たまゆへ　冥連中　李仁

柔師まちの筆よ夕時　星石

む芥子の咲こうれて　富石　よ桜

だもて　紅て　ふれ　蕃（フコ）　ふり　鍋計

意不も陽兵の重て乳と近　芦州

こうねたこうて　粉と信ふる　秀橋

雪かれた　月の面ひ　山　酉跡

原も　手孫　ふり　竹の極　ひり　専梨

原代を袋も　おと　れの　沖（岐阜連中）　臺平

おと　て　ふるいおそ　ぬ　星石

異ひれい　紙も　侍姫を　ふよ　来て　柳因

ふの　ひれの　姫川　あ　ふ　仕竜

新堂　て　厚　帽子　ふ　ふ　ふ　台古

柔陽も　屋の　柔薩　ふ　よ　梶子

丁こと鉞のころもとりて　江水

菜とくふ　春のよはけふ　水胡

二

重れよ　孤坐の　ふるさと　永日　もとの連中　泊秋

ふるい女中の信よ　星霜

うとまれて八卦よ　高を　ちらく　七雨

月をうとれも　待ち　入れ　羽蟬

膳をして　重信と　ひあり　有琴

祖父もまけれのなりを　山ろ　仲志

氏神の精毛の集ち　ゆひ　ふり　松元

赤ひ　ひ中ち　市の月よ　ふり　架書

吹矢筒ふけて　れ毒の茶　ろ　元　笠松連中　逆文

重ち　雲は　へたれ　夕立　里雨

月百ろ　ふ　蛙も　ゆ　ひ　訊九

皇　森よ　高つ　ふ　ふけ　危蛇

之脈とれい　ふも　会　ぬ　泊童

ふ　よ　化核　ふ　れ　あよ　彦山

霧入ゟ日和あかる月のうら　斎丁
鱼も織女の背にまとふ哉　桂柳
7
急ぎも小使にさく蹄まよひ　小方連中 琴花
口てきた大よく治郎帰り里る
うハ言も尾のあるやうな寵なり迎こ
筵扇風に色の挑納夌め
お倉海の霜うこうのたおまて　風斎
みちら華ねとも俵ちてとまき　比柳

ちろくと見送る蓑小のむ　亭仙
若にあれ虫のしるや　流河

名録

山縣連中

寒のむや此山里の来不帝　野航
こう月や名と佑中ゑう残　六之
粽也奇に結れ岩ろ子　白柏

[illegible] 月[illegible] 乎羽
板[illegible] 塔の [illegible] 義 石苑
[illegible] 栗凡

忠[illegible] 関連中
[illegible] 季仁
古代[illegible] 千桜
[illegible] 鉦
[illegible] 鯉計
[illegible] 芦刈

[illegible] 表を咲くや 梅の匂 美穂
[illegible] 西陣
山吹の [illegible] 弾[illegible] [illegible]

岐阜連中

世序[illegible] 祖又[illegible] 衣紀 童平
仏華の [illegible] 義の 詩 [illegible] 梅園
[illegible] 仏合 [illegible] 仕竜
之一切 [illegible] 台右

[illegible] 星 信 [illegible] 櫂ニ
[illegible] 水胡
[illegible] 鄭 [illegible] 染 [illegible]

長良連中

あ[illegible]の星 [illegible] 波 [illegible]
七夕の [illegible] 流 [illegible] の [illegible] 七 [illegible]
[illegible] 羽 [illegible]
[illegible] 有 [illegible]

[illegible] 仲 [illegible]
[illegible] 呂 [illegible]
[illegible] 戸 [illegible]

笠松連中

[illegible] 迄 [illegible]
[illegible] 訊 [illegible]
[illegible] 元 [illegible]
[illegible] 夕 [illegible]

[illegible]振神の　[illegible]女鹿山
[illegible]の鹿も[illegible]鳴[illegible]　[illegible]
[illegible]本情の[illegible]柳

小方連中

生徒の涙と共焼のやく[illegible]琴九
[illegible]なく唐幸[illegible]遥ニ
[illegible]月や恋[illegible]　[illegible]　[illegible]
羽衣の[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　比柳
[illegible]嫁入[illegible]　[illegible]
[illegible]化粧[illegible]　流可

[illegible]月の[illegible]
[illegible]園を[illegible]　仙星紅
[illegible]の[illegible]
[illegible]　郭　乙

越前

敦賀　短哥行

あれたのもしくあれとやあるらん　東慰

笠ぬぎて山もゝ　衣ぬぎ　紅

見てわすれぬ代の名残とて　芭

ここの住ゝ　ふるさ　梨月

名月の芋よりほかもなし　ウ

もえの侍ぬ　ほゝ　八市　慰

西とゝ　ゝ　月

日和ゝ　ゝ　毎

こゝ屠蘇ゝ　ゝ　慰

ゝ　ゝ　ゝ

おゝ化粧ゝ　乳母もの　芭

山ゝ　孫ゝの　月

ゝの丸も　ゝ　紙ゝ　荒屋　東吾

今宵のうちと鶯よ お読 徐栄

正しき素読吟ずれば 雨楊

竹もうとう起て 書 紀白

袴ゆて素読のまねかうり 栄

二百石ゆうゆう 城下 吾

明月の移いの所の市ゆうの 白

踊の行と吟ずれば 楊

ウ

ものよりへ嬢い佳様を見わり 吾

菜よりゆうゆう年寄の業 栄

お吹のうしろ いい吹ふう 楊

四よりの星よ あゆふ 白

名録

ゆうゆうとふもとに浮かゆう 東魁

門口の三味線弥ゆう田佐ふ

名ゝ錠の哥の ひくゝゑ 東吾
恨ゝて世と保侯の高宗い
孫ちや ひとゝ深ゝ 意の詳 梨月
哥や 集 ひふゝ 門むら
世哥や 名 ゆ ゝいもれ 雨陽
こ月や 詠ひてゝ人の新
哥の ひとゝ や れ こん ゝ 笹舟
華侍や 今 高 ゝ ゝ ひ侯



哥ゝ名と 詠ゝや ゝゝ こ 墨
秋ひゝや 世 の 侯 ゝ 高 ゝ
山ゝや 哥 高 と 高 ゝ 新 ゝ の 妙 紀白
嘆氣ゝゝ ひゝや ゝゝゝゝゝゝ

行中　短冊行

蒼茫切と京のあけぼの　文拙

もゝれ強もゝ表の下冬里　晃校

村雨を後と感ずて咽的

代官屋をかゝる人見　仰軒

ウ

七浦の秋と月　文

板の実こゝろひよゝ　校

秋風と行こゝ江湖のわ後迄　軒

出陽とんてゝ月を焼的

お蚩ゝ青の音張もゝて　校

猪の声ゝ合かゝゝ　文

色変ゝ木ゝもあゝて人ゝ咽的

二

実ゝあゝて いゝ永ゝ日　軒

ゝゝの声ゝもちゝゝ門むゝ　文

姫のゝと 帰ゝ 吹強　校

黄菜とやゝてほへ梅も　喈　執
おぼろよ許の嘉をまん　岩　的
下性を咄る幾れよ眠をあふかり　枝
黄黄の祖父も有むちた　ふ
網よ片側町の松の月　的
ひよんなお鍋よ気はたりる　執

ウ

二人よ雨風ひゞいは嘴をまて　ふ
る沖なよも生の不自由　枝

おくり日和よむも咲なりく　執
きしかたの海れくりや　的

名録

頬つらくて雲ゝ川続木なる　兄枝
元鐘も枯木よむのちりれ
あらむや袋ひらけて日のよしを　的

名月や海の色も波の色

荒(モヤリ)落て沖茫々たる月哉　柳軒

雁なき渡る夜の声やうら淋しく

初岳　短哥行

あかつきの雲ふかき山の端や初ふくかぜ　章吹

あやめ草ふかき軒端の雨ぬれて　里紅

お髪の給仕よ膳をあよ合て　岩芝

赤ふんどし頭巾へ白の十三夜　盧白

山流

蕗の薹のひかり　庵多　吹

いや中へ新たに三体りうりて　和

年の新と駆くお袋　芝

孫之よ茶の中神子へ　流

蕎もどよ　白

エ

林麻りうちの宍橋を　嘴くくとし　吹
うそてかりくらゐの不をゑ　礼
右姫の仔を也よ吾信ひ之こて　芝
世ラ筆ましアをよ家かラくいゑれ　流
香飾ら菜を勝よ吹はまし　白
日和清ゑよ世し宮への加る節　吹
加いひて京よまさりて吉相氣　礼
あれるくしとをうり　嘘清ま　芝

ウ

作彼の月よりうん本件おかれ　流
踊の筆の文ほ　河之　白
至具の伽よ会依ちや　あきら　吹
唐人のまとさをみじあへあ　礼
そいくとおひ天の連の屏な識　芝
為よりしよ　搖み春御　流

谷錄

浮かべる大石あり　此中に　六枝
枝々青木お茂りあり　青の宮　丟數
宮中の宮もを　社舟　まて　樓遠
名月やれよむしりしなおりを　庶風
むこ宮中まれる　宮のさき　掃除　所樣
おもふ　錄　はけく　あり　出さる　宮指

竹のよう海　迄て　留　中　山路
陸くしゃ　宮と　山流
所れむ　大工　むたるかりよ　鹿白
石橋　茶　留　ゆ　る　ま　岩芝
む　宮の　ゆ　伊達　宮の　花丈
まとまる　佐　ふ　ゆ　ま　之事
ふし女の　ゆ　橋　面　ゆ　秋更
こ月　錄　入　ゆ　ふ　稲の　用樂

やさしいのひけや坂の白木槿　亭吹

三国　短斎行

舟のよにそふりすゝやるあかり　昨美

田家にてく門先の山里に

あふしくいし〆ミに命かりんちくて　橋本

まく染ぬい白菊言清　伝和

三ヶ月に日和と祈るまつりかな　麼笛

数奇に横に留あまれて　車人

横縦の名にかけ日より時雨り　ふ

る僧のかにはしまて降こ　衰

あきく移りしあけて庭よむや降絵の袖　水

枕かにそ門し腰帯とよる　東

唄待をかゝりにむめ下庭鶴　人

阿ぐ堂に鉢の鞍昼くらむ　角

[illegible]年の[illegible]人やふと[illegible]信[illegible]れて　[illegible]
いはれも[illegible]横くさん作文[illegible]
孫掛[illegible]余不の[illegible]決ゆて[illegible]
拍[illegible]日掛の[illegible]へつ
晒作[illegible]川へ[illegible]の[illegible]角
[illegible]母の仏と[illegible]れ人
[illegible]の月[illegible]
[illegible]て[illegible]

[illegible]て信ひ[illegible]人
[illegible]妹[illegible]の[illegible]
久[illegible]へ入日[illegible]
作[illegible]の[illegible]角

名録

[illegible]

石河やゆかしき詠の比丘尼寺　播東

千金の扇しばらくやちらはらく　流和

もみくしの中に大工の十露ハ　亜角

まら荏崎田打の笠やころんこなり　一統

石部にて餅も煮て喰ひ日和かな　弟営

ゆかしさや例時の松の一化粧　車人

風景やこちらへ先へ新涼し　傍趣雪

夕ぐれの雲に谷あり片時雨　乙黄

加賀

大正寺

短歌行

白鷺のお城をさしてかへる鶴かな　隻鳧

真菰に鎌をいれる夕月　星和

中ぬきて草をまたまは荒れて　寥芝

よしみてよろは錦日ちらく　竹豊

詠くして作るあまされて蕎佐翁　梅石

あの指子あとてをかしい神祖也　素圭

年毎のものも絵筆への跡をとゞめり

竹谷の石泉は浄瑠璃

へ作りて云伝へのやうなる方

今又竹谷かくさ

れる言葉をあつめものを

破て谷の山石

唐絵にも四を書く牛のいたれて

和尚をはれのやうに おかの石





江戸にあり紙に絵をかく

義の蔵れ豊

さてしたいのうなる石

魚とそれむさまよおれる走

さて月日を答てかれる豊

熟も詳 石を拾 泉

世話やきの祖父をぬぐるあるうる

ものと称 そ術 石

[illegible] 芝

[illegible] 圭

名録

[illegible] 友枕

[illegible] 霧縣

[illegible] 虎角

[illegible] 一系 一帆

[illegible] 蒔錦

[illegible] 止林

[illegible] 松石

[illegible] 閑芝

[illegible] 集水

[illegible] 竹豊

[illegible] 素圭

麦苗の雨をこうるとふかとうる　廉吹
はるゝや東よる　雉子　釜の陽　幽考
人人をふしてや　鳴　東花　芦仲
風雨を眠りて　春のはくれ　歴之
うゝ　春と　雨　東琴
夕ゝや　鳴をはらふて　鳴　雉　桃園
三月や　雨　雑　雑の上　之洞
揚らのよう　うゝや　雑　の　如松



雨のはをいゝや　る　木　立　山市
東雲と　ゝ　見　ある　汐　テ　和汐
ひ　雨の　雑　の　化や　う　春　一字
雨　ゝや　ふて　菜の　ゝ　れ　九妖

十松　短歌行

田のみは京よ須てや舟みかな　塵生
星霜の事よ秋る帆かな　星紅
まくらい隼の人とゑかねて　乃露
隣まで継よ川あけて玉　之仲

ウ
鋸稲よ逆おしうきり高み月　貝棠
お茶ぞ何と枕ち涼しい　乙甫
はうたと高ぬ名ぬよ咲あうき　非人
子（チモリ）書も包みてとひきし火　生
手すりかて路れて手るみおもしろさ　京
鯨かいやあうれかうり汁　露
新人ぞの世の高をとんやしうり　仲
二
印もてなしと眠りさて芝　棠
おあしうけ明て手荘のそんのかり　甫
はうりつきじてそれく腰きさ　人

四天のあまりかゝゆて　吉敷　生

美子の芳の言語　同所　孔

ふれば新たくの白の月よ　春

化一つるしの声をかくれ　仲

四月を雨一て月を照さまし　冥

新仏ぬしてあるく　春東

新ぬしのいまてお花よまれ白し　人

ふるあふて　もふれこ病てい　生

ひまてて春ふるのはれのうしかまれ　孔

春とうれてあるくしきこ　東

## 同所　短冊行

ゲ新やまく延てゆ蔓て峡　孔雀

文ふのされの竿にふ彩後　冥孔

かるふ花ふはもを　笠をふれて　春冥

ら

月の明かなるを面白く詠ずる遊芝

丁も相伴いとかりる俳諧一洞

氏子をあつまして詩歌お獲好和井

名うれ名あるを楽おしる事会是宙

沼水の芳うをとれよ吹こうれ芦五

もしひとも家ねひとこと二ことね糸ら

門掃て迫ねよかれいとけりれ

二

節ちくりてちちる菊面稀

い詩も新年のちくこうちる芝

けけ鈴の砂とかりよ琴

嘘けらちよ呼ぶれ星の浜但

うちい集も拾よあ八ら井

かまいてもあいお紫とおうて宙

芳信よちよの意嘘ちれ交

神義よ富ちて夕月ね弓

雲よりまもりてたなびく　俊成　丘

尼上も住まれぬ淵と柳ちる　柳

脇　あらし吹　ばくとよ　あ

あるやうに　猿　金山のもの　幕　昭

日もすがれの紅葉　山寺　蓮

名録

日和うらよりて峡やみれむ　不弓

ふ庭へ立て這入り　猿の歩　貝鶯

うむのあとや　まこの時　なか

れよ峡名や　洗れてかぶ　雨川

茂峡や　猪よ　まと　ぶ　蕃文

郭公や　京　もり　郎　吟司

まわれて　玉　毎　堂　空廣

かうなれて　杉の　夕　涼　一雅

雜上

四海の賀新しく萌れも生れ
望人の除夕も熟真方
九年の賀年や餅の文之
五月雨の松の細工や時ひとり菖蒲
毎年や蘭も引あつて柳糸是宙
年年や菖蒲ふて立ちまり 次广
松風とそよふる窓の涼しさ 文知
元山も呼ばれてや久月 李邑



舞の袖 信定 一句は 桂久
月代や 時雨 ふる 時の夢 九中
風も吹加てうたはれ 衣文 素琴
春雨の ふる ふる 柳 枝堂
五色の ふる ふる 脇月 一内
ふる ふる 片くく 初 山 遊芝
片信の 傳 ふる 月 月の氣 和井
文橋の てり や 夕日の 張ひ ふる 俳文

[illegible] 芦垣
菊折てうるの男や　も　袴　桑房
名香のあるやうに袴を下ろしてゐる　南尹
[illegible]　維仙
[illegible]
[illegible]
[illegible]

松任　短冊行　千代女

皇家の行幸まねき奉るべく
瓜の雫を　咒の雫を　雫あ
[illegible]て　大工の下　[illegible]　若推

ウ

[illegible]に　面の　[illegible]　代
踊[illegible]　[illegible]月の　[illegible]
[illegible]　[illegible]　板

きらくとゆくゑ東をよ花の酒　代
身と起て花の明計　五
一夜書より西会坊いかゝ　和　板
俗い流よ涙いまつても　代
貸苦うむ本津のか家の長雨　五
まらくあり化粧よ初年　板
二
まいるのうちよ仮てちらくと本膳
仏法の五節のあらくいかよ　五

漢ちらくて会のちらくよ初代
師走を祈る桐の大雪　膳
主従の主弟きちゝかすゝ　板
羽織を打よ長やて草稿　代
きく吾れ六八方ちらくと月　五
ウ　明て所りて此のおけれ　板
後ろある内ちらくと俗よこて　膳
あんを姉よ涙ちらくを仕合　五

八十あまの日ゝをもとりてきり　代

ゝゝあるかのきりゆ　長　脇

名録

雁の音の羅文付きり　家　月　若推

虹の尾のかけ来るゆふ空　宗　脇

ふゝゝゝ有ゝかゝゝ様ゝゝ　千代女